

オホーツク社会人サッカーリーグ運営要項

1. 主 催 オホーツク社会人サッカー連盟
2. 主 管 オホーツク社会人サッカー連盟
オホーツク管内各地域サッカー協会
3. 開催期間 当該年度5月～10月（競技が出来る期間）
4. 参加料 当該年度のオホーツク社会人サッカー連盟代表理事総会で決定する。
5. 参加資格
 - (1) オホーツク地区サッカー協会に登録及び（公財）日本サッカー協会に登録を完了した第一種チーム（大学・高専連盟に加盟したチームは除く）及びシニアチームとする。また、（公財）日本サッカー協会にクラブ申請が許可されたチームであって、オホーツク社会人サッカー連盟（以下連盟）に加入したチームであること。
 - (2) 参加選手は上記の第一種登録、シニア登録、及び女子登録を完了した選手であり、クラブチーム又は他の事業体チームに二重に登録されていないこと。但し、シニア登録選手は他地区登録であってもオホーツク地区在住者に限定し、参加できるものとする。
 - (3) シーズン中は、同一人物が2チームにわたって出場できない。
 - (4) 参加チームは3級以上4名の登録審判員がいなければならない。但し、新規チームの猶予は2年間とし登録審判員が上記に満たない時は、リーグ参加資格を失うものとする。又、転勤等で審判に不足が出た場合は速やかに資格者を確保すること。
 - (5) 参加チームはオホーツク地区サッカー協会及び、連盟の活性化と発展に期するものとする。
 - (6) 新規加入を希望するチームの当該リーグへの参加については、連盟常任理事会で事前協議し、代表理事総会の承認で決定する。
 - (7) 原則として16歳以上の社会人及び学生で構成されたチーム（高校生単独）は不可。所属校に部活動が無い又は、部活動終了後の2種登録をしていない高校生及び、（公財）日本サッカー協会にクラブ申請が許可されたチーム・選手は参加することができる。この場合の高校生については、保護者及びチーム代表者の承諾書を提出すること。（別紙様式）
※部活のある高校に在学中で2種登録のしていない選手は、顧問・監督からオホーツク地区サッカー協会2種委員会を通じ推薦があれば登録することができる。
6. 競技規則
 - (1) 当該年度（公財）日本サッカー協会制定「サッカー競技規則」による。
 - (2) ピッチのサイズは原則として縦105m×横68mとする。
 - (3) 試合球は連盟指定公認球とし、各チームによる提供とする。
 - (4) 試合成立の必要人数は試合開始予定時間において1チーム7名以上とする。
7. 選手エントリー
 - (1) 前項の参加資格を有し、選手エントリー人数の制限はないが、原則として最低16名とする。但し、他地区登録のシニア選手はその数に含めない。
 - (2) 選手エントリーは当該年度の4月末日をもって行い、入替戦又は順位決定戦終了まで有効とする。
 - (3) 外国国籍選手の登録は3名までとし、出場エントリーは交替予定者を含め3名までとする。

- (4) 選手の協会登録削除又は追加登録は、オホーツク地区サッカー協会を通じて北海道サッカー協会に手続きをしなければならない。尚、参加選手のエントリー変更はWEB登録のコピーと追加登録金領収のコピーを出場する試合の前迄に運営委員長に提出すること。
- (5) オホーツク社会人サッカーリーグ間での、シーズン途中における選手の移籍は、認めない。但し、上部リーグ（道・道東道リーグ及び道東・道北ブロックリーグ）と下部リーグ（オホーツク社会人リーグ）間の移籍は可能とする。

8. ユニホーム

- (1) ユニホームは、リーグ登録書に記載された正副2着を常備する。
- (2) 背番号は正副同一番号とし、チーム全体は1番から通し番号を原則とし、シーズン中の背番号の変更は認めない。
- (3) 審判と類似のユニホームの色（黒又は紺）の上衣は、用いることができない。
- (4) その他の規定は、(公財)日本サッカー協会競技規則に準ずる。

9. 競技方法

1部リーグ

- (1) 試合方式は、セントラル方式（一括開催）とし、5チーム以下の場合はH&A扱い2回戦、5チーム以上の場合は1回戦とする。
- (2) 試合時間は、90分とし延長、PK戦は実施しない
- (3) ハーフタイムのインターバルは15分以内とする。
- (4) 交代要員の数は7・10名とし、交代できる数は5・7名とする。
- (5) 優勝チームは道東道東・道北ブロックリーグ下位チームとの入替戦を行う。最下位チームは2部1位チームと入替戦を行う。

2部リーグ

- (1) 試合方式は、セントラル方式（一括開催）とし、5チーム以下の場合はH&A扱い2回戦、5チーム以上の場合は1回戦とする。
- (2) 試合時間は、80分とし延長、PK戦は実施しない
- (3) ハーフタイムのインターバルは15分以内とする。
- (4) 交代要員の数、交代できる数は無制限とする。
- (5) 2部リーグ1位チームは、1部リーグ最下位チームと入替戦を行う権利を得る。
- (6) 新規加入チームは、最下部リーグへ所属する。
又、3級審判は育成期間とし2年間免除されるが、4級4名以上は必要とする。
※負担金(3級審判員がいない場合)1試合4,000×試合数分の派遣審判費納入。

9. 組合せ及び日程

- (1) 組合せは前年度優勝チームを中心に、上位と下位とを原則として第一節から順に対戦するよう考慮する。
- (2) 日程は運営委員会で決定し、主管地域協会と協議の上開幕前までに、各チームに通知する。
- (3) 1節当たりの試合時間、順序は運営委員会において決定する。但し、主管地域協会の諸事情により、運営委員会が認めた時はこの限りでない

10. 順位の決定方法

次の順序により、リーグ戦の順位を決定する。

- (1) 勝点（勝＝3・分け＝1・負＝0）
- (2) 全試合のゴールディファレンス（総得点－総失点）
- (3) 全試合の総得点
- (4) 当該チームの対戦成績

11. 表彰（各部リーグごと）

- (1) 団体表彰 優 勝 優勝杯
- (2) 個人賞 得点王 盾
- (3) 前年度の各リーグ優勝チームに対し、トーナメント大会（知事杯・クラブ選手権・全道社会人）のいずれか1つの大会参加料を助成する。
※助成金の申請書は、所定の書式にて事務局に提出する。

12. 入替戦

リーグ終了時の最終成績で、下記のように次年度リーグ編成を行う。

- (1) 原則的には各部とも、競技方法（5）に準ずる。北海道リーグ・道東道東・道北ブロックリーグの結果及び、地区リーグ参加チーム数の変動等によりリーグ構成に影響が及ぶ場合はこの限りではなく、連盟常任理事会で協議決定する。
- (2) 事情によりチームが中途脱退した場合は、規律委員会で協議決定する。
- (3) 次年度リーグ継続加盟をしなかった場合、又は、リーグ加盟を認められなかった場合は、規律委員会で協議決定する。

13. 競技審判員

- (1) リーグ加入チームは帯同審判制とし、3級以上4名のオホーツク地区サッカー協会審判委員会に登録された審判員を帯同しなければならない。
- (2) リーグの審判運営は、担当チーム4名（主審・副審・予備審）により行い、運営委員会が定めた審判割当てをもって、チームの責任において行う。
- (3) 審判員は主審・副審を問わず審判服を着用し、課せられた任務の重大性を認識し、荒れ試合・苦情等のないよう努め、態度厳正にして積極的に遂行しなければならない。
- (4) 主審は3級以上の資格を有する者とする。但し、新規加入チームは資格取得に猶予を与えるものとし、所属部の運営委員会で主審割当てを変更できるものとするが、都合が付かない時は、連盟審判委員会の担当者に依頼する。
- (5) 主審は審判報告書を競技終了後、速やかに各部運営委員長に提出すること。尚、試合で退場等があった時は、その日のうちに審判委員長及びリーグ運営委員長に必ず報告すること。
- (6) 上記登録審判員は積極的に研修会等に参加し、技術の向上を図るものとする。

14. 運営割当て

競技の円滑な運営のために、競技場準備・審判・記録・後片付けの当番を各チームの責任において割当てる。

15. 罰 則

- (1) 警告・退場者の処置
 - ① 警告・退場者の処置については、オホーツク社会人サッカーリーグ運営要項細則により処置する。
 - ② 悪質な反則を行っての退場については、以後の試合は審判報告書に基づき、連盟規律委員会（以下規律委員会）で裁定する。
- (2) 棄権チームの措置
 - ① 原則として棄権した場合は、そのチームを除籍とし次年度の出場を停止する。その後の処置については規律委員会で裁定する。
 - ② 棄権した場合の成績は、相手チームに勝点3・得点5を与える。
- (3) 本要項に違反した場合及び、主審の意に反して試合を放棄した場合は没収試合とし、原則として当該チームは除籍、その後の処置は規律委員会で裁定する。
- (4) 試合前後において又は本リーグの秩序を乱すような悪質な言動・行動が選手並びに役員から文書によつての報告があった場合は、その後の処置は規律委員会で裁定する。

- (5) 不戦敗防止
勝点のやりとりとし、順位決定後に不戦敗数に応じて順位を繰り下げる。

16. 道東道東・道北ブロックリーグ参加資格（条件）

- (1) 1部リーグを優勝し、且つ道東道東・道北ブロックリーグ参加資格を得たチーム。
- (2) 上記の参加資格を得たチームは棄権できない。
- (3) 上記（1）のチームが棄権した場合は、15. 罰則（2）項に準じて処置する。

17. 事故防止

- (1) 試合会場への行き帰りの移動・試合中・その他の事故については、各チームの責任において対応すること。
- (2) 各チームはリーグ開始前までに、スポーツ傷害保険等への加入を推奨する。

18. その他

- (1) 本運営は、オホーツク社会人サッカー連盟サッカー運営委員会に委ねる。
- (2) 上記の運営委員会の規定及び社会人サッカーリーグ運営細則・競技規定等は、別に定める。
- (3) 上記事項に記していない事項の場合は、連盟常任理事会で審議決定する。

付 則

- 本要項は平成17年4月17日より施行する。
- 本要項は平成19年4月 8日より施行する。
- 本要項は平成21年4月 1日より施行する。
- 本要項は平成23年4月 1日より施行する。
- 本要項は平成24年4月 1日より施行する。
- 本要項は平成25年4月 1日より施行する。
- 本要項は平成26年4月 1日より施行する。
- 本要項は平成27年4月 1日より施行する。
- 本要項は平成28年4月 1日より施行する。
- 本要項は平成29年4月 1日より施行する。
- 本要項は令和 2年4月 1日より施行する。
- 本要項は令和 3年4月 1日より施行する。
- 本要項は令和 4年4月 1日より一部改正。
- 本要項は令和 5年4月 1日より一部改正。
- 本要項は令和 6年4月 1日より一部改正。
- 本要項は令和 8年4月 1日より一部改正。

オホーツク社会人サッカーリーグ運営細則

《 警告・退場を受けた競技者に対する懲戒処置 》

1. 警告を3回受けた競技者は次の1試合を自動的に出場停止とする。これを繰り返した競技者は更に次の1試合の出場を自動的に停止する。以後の処置は規律委員会で処置する。
2. 主審より退場を命ぜられた競技者は次の1試合を自動的に出場停止とする。その後の処置について前項に準ずる。
3. 退場と警告による自動出場停止を重ねた競技者も上記と同様に処置する。
4. 1シーズンのうちに本リーグ以外の競技会において自動出場停止処分を2度以上受けた競技者に対しても上記と同様に処置する。
5. 本細則による処分は原則として1シーズン内で効力を失うものとするが、本リーグ末に処分が行われた場合には次のシーズンに持ち越すこともありえる。その決定は上記の規律委員会にゆだねる。
6. 次のようなケースでの処置は下記の通りとする。

警告3回で出場停止となる場合の事例

ケース /試合	G 1	G 2	G 3	G 4	G 5	備 考
1	C ₁	C ₂	C ₃	×		警告数残らず
2	C ₁ ・C ₂ (=S)	×				警告数残らず
3	C ₁	C ₂ ・C ₃ (=S)	×			C ₁ は残る
4	C ₁	S	×			C ₁ は残る
5	C ₁	C ₂	S	×		C ₁ 及びC ₂ は残る
6	C ₁	C ₂	C ₃ ・S	×	×	警告数残らず
7	C ₁	C ₂	C ₃ ・C ₄ (=S)	×		C ₁ 及びC ₂ は残る

G = 試 合

C = 警 告

S = 退 場

× = 自動出場停止

G 1 = 1 回目の試合

C₁ = 1 回目の警告

G 2 = 2 回目の試合

C₂ = 2 回目の警告

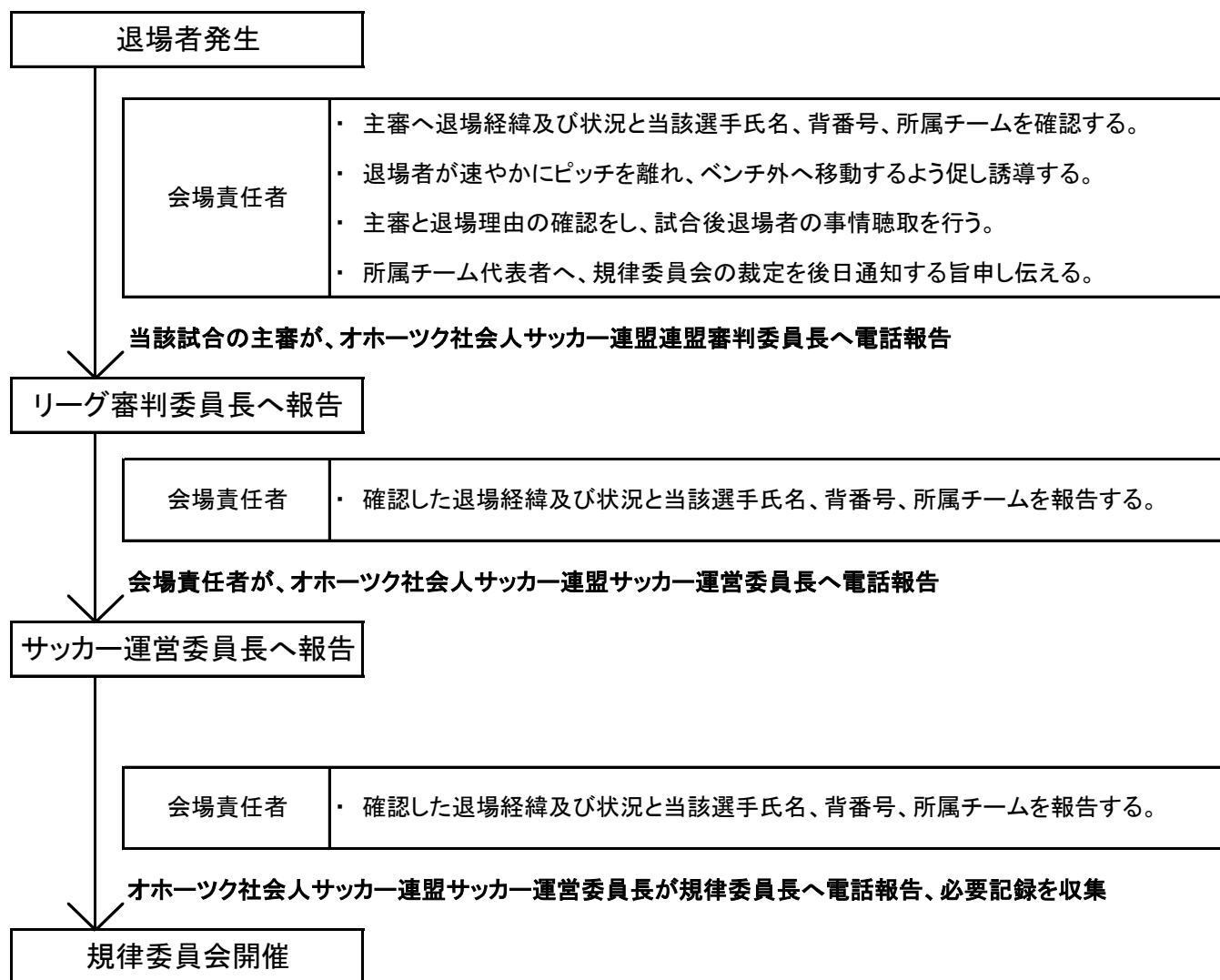
G 3 = 3 回目の試合

C₃ = 3 回目の警告

G 4 = 4 回目の試合

C₄ = 4 回目の警告

退場者処置及び規律委員会開催へのチャート



※ 規律委員会は当該週火曜日19:00に開催とし、事務局長は公式記録及び審判報告書を8部用意する。

※ 規律委員会の出席者は以下の通りとする。

- ・ オホーツク社会人サッカー連盟 理事長
- ・ オホーツク社会人サッカー連盟 副理事長
- ・ オホーツク社会人サッカー連盟 審判委員長
- ・ オホーツク社会人サッカー連盟 規律委員長・規律委員
- ・ 当該試合の会場責任者

※ サッカー運営委員長より規律委員会の裁定通知を会場責任者へ通知し、当該チーム代表者へ周知する。

悪天候等による試合の中止について

① 基本の方針

基本的には、強風・豪雨・降雪でも試合は行う。しかし、状況に応じて試合の中止又は、試合開始時間を遅らせるなどの対策を関係者で協議し決定する。

② 台風・豪雨・強風・降雪・吹雪の場合

試合の当日、悪天候で設営も困難で、尚且つ選手等に危険が及ぶ場合は関係者で協議し、開始遅延及び試合中止を決定する。

※中止となるケース（例）

- ・豪雨によりグラウンド全面が水溜り、又は積雪によりラインをひけない場合。
- ・強風で周りの物(木の枝・看板等)が飛んできて、人に危険を及ぼす場合。
- ・天候悪化及び災害等により、幹線道路の交通止めが相つぎ、会場に行くのが困難な場合。

③ 雷発生の場合

試合開始前の場合は、危険性がなくなると判断できるまで試合開始を遅らせる。
試合中に雷が発生した場合及び落雷の予兆がある場合は、速やかに試合を中断し選手・関係者を安全な場所に避難させ、危険性がなくなると判断できるまで試合を再開しない。

安全な場所：自動車、バス、本格的な建物の内部

危険な場所：グラウンド上、木陰、テント、仮小屋の中

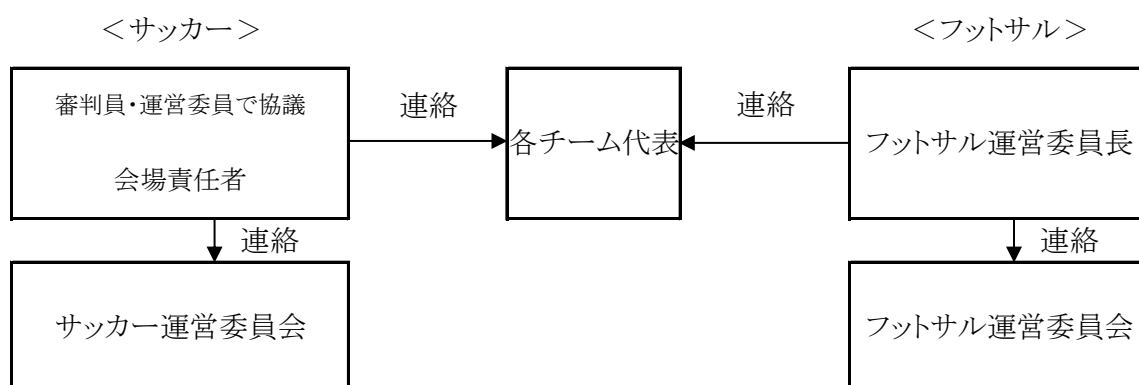
※中止となるケース（例）

- ・雷発生に伴う試合の遅延で、そのまま日没となる場合。(照明がない場合)

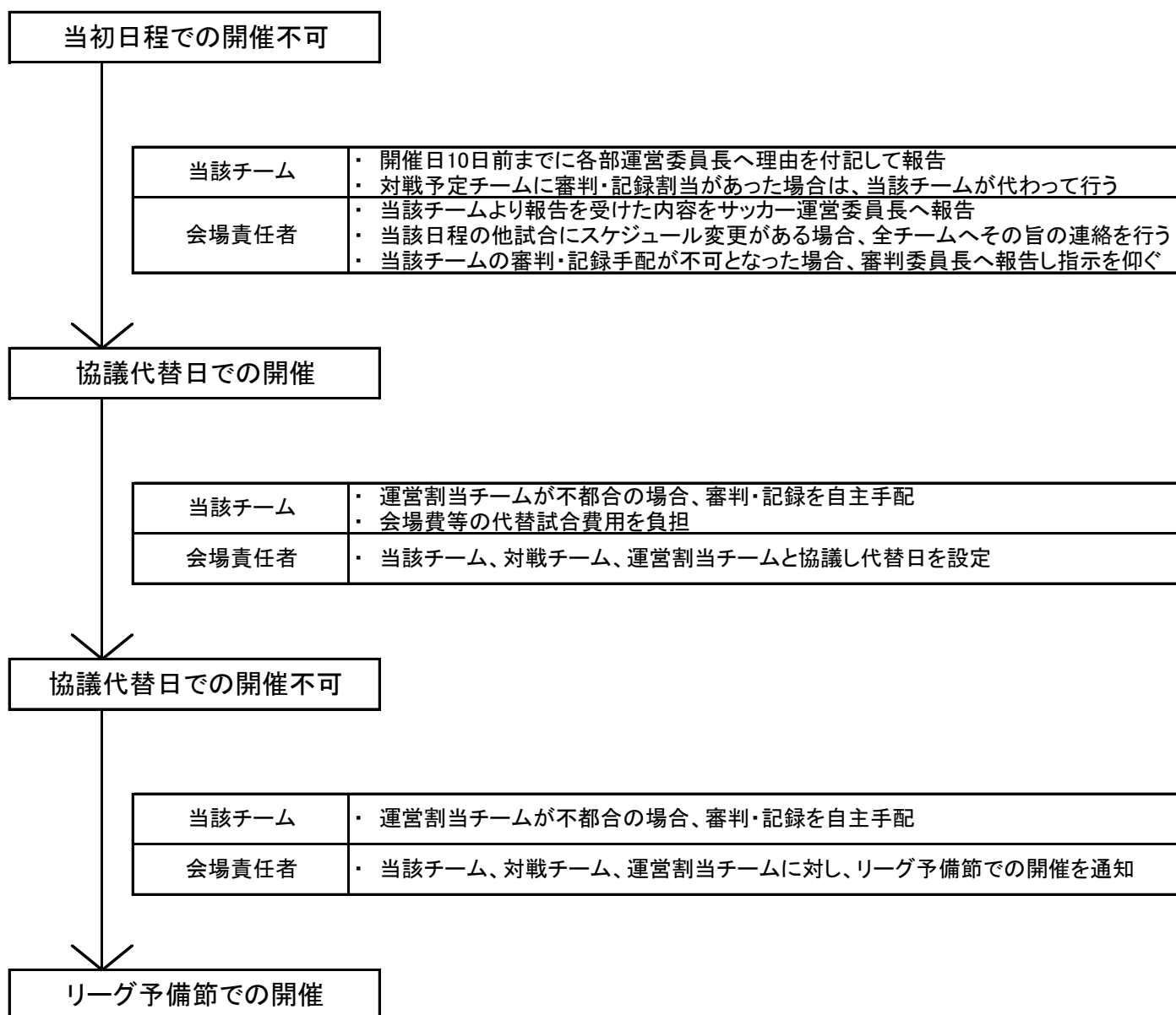
④ 再試合の場合の処置

試合が中止になった場合のその後の処置については、サッカー運営委員会及びフットサル運営委員会で協議し決定する。

◎試合中止となる場合の流れ



代替日程開催のフローチャート



※ 代替日開催は不戦敗防止と正規な試合数履行を目的とする

※ リーグ予備節は天候不良等や不慮の延期試合等の開催を目的として年度当初にリーグ公式日程として設定する

※ 代替日において延期試合が開催出来なかった場合には、当初日程での開催を不可としたチームを不戦敗とする